

特集



巨石サイトオーナー討論会報告レポ

巨石サイトオーナー討論 会報告レポート

写真撮影 …須田郡司（フォト魂師）

文責 …高橋政和（季ノ組 あんでっど）

企画名「巨石サイトオーナー討論会」

2007年1月27日（土）実施

序文

「今まで参加した巨石系のイベントの中で一番面白かった」

イベントが終わってから、そんな声がよく聞かれた。出演者にもスタッフにも同様の声が多く届けられたと聞く。実際はかなり充実したイベントとなったのではないかと、私も感じた。

「インターネットで巨石の情報を発信し続けているサイトオーナーを一堂に会して、彼らの話を直接聞きたい」という動機で始めたこのイベント。

私は当イベントの発足時から

参加できなかったが、途中から司会者という肩書きで、スタッフとして参加することができた。一司会者の視点から、このイベントの顛末を簡単に記す。後の同様の企画を行う際の、参考に少しでもなれば嬉しい。

以下、各人の名称は本名ではなくハンドルネームで記す。イベントの趣旨がハンドルネームで語り合う、インターネットのオフライン企画から始まっているからであるため、その旨、ご理解いただきたい。

なお、私が理解、あるいは記憶しているところの討論会の内容を記させていただいたが、間違いが存在した場合、それはすべて私の文責によるもので、討論会のほかの関係者の発言や行動によるものではないことも、合わせてご理解いただきたい。

発端

元々同様のコンセプト（インターネットの巨石サイトオーナーから直接話を聞く場）を持つイベントを行いたい、という話は、個人レベルでは相当に以前からあった。今回のイベントが実現できたのは、イワクラ（磐座）学会の発足により、全国に散らばっていた同好の士がより親密に連絡を取り合える環境が整い始め、現実とその企画運営を行える人間関係が築きあがってきたという前提が非常に大きい。

具体的な発端は2006年9月頃のことだった。今回のようなイベントを行いたいという声が、主として関東在住のイワクラ（磐座）学会員の中から上がってきた（※）。彼らのうち、何名かの有志が中心となって「巨石サイトオーナー討論会実行委員会」を立ち上げ、スタッフと出演者の招集を行ったことから、このイベント企画は始まっている。

※討論会のコンセプト（巨石『サイトオーナー』討論会）のみならず、イベントを望む最初のきっかけと、同じ志を持つ仲間集め、実際の運営にいたるまで、すべてがインターネット上で成されたことに、強く留意しておいてほしい。

同年11月ごろ、スタッフと出演者は、ほぼ完璧な布陣を敷くことができたと聞く。ただ、司会者だけが決まらない。そこで私が不肖ながら司会者を引き受けることとなった。それまでは一聴衆として討論会を見学に行く予定でいた。割りどと気楽に当初は構えていたのだが、この時、イベントの実現に向けては、当然のことながら問題は山積みであった。何せ、今まで誰もこのようなイベントを実現した者はいなかったのだから！

リハ、当日に至るまで

事前の打ち合わせは、ほとんどメールを用いて行なった。メールは今や知らない人はいないと思うが、今では当たり前になったインターネットというツールにおける一つの技術だ。特定メンバーへのメールの同報配信が可能となる、メーリングリストを駆使した打ち合わせは、恐らく十五年前の十倍以上のスピードで話が進む。時間的にも距離的にも。

具体的には今回、実行委員会でやり取りされる情報は、シヤロマロさんが開設、管理してくださったメーリングリストで展開された。スタッフ、出演者の全員がそのメーリングリストに所属した。さらにそこで蓄積した情報は、夜風さんが専用のWEBサイトを開設し、マニュアルや台本の形式にまとめていつでも閲覧できるように公開してくださった。

インターネットから始まった企画を、インターネット上で進めて

いく事は当然のことであり、特に誰にも違和感はなかった

リハ・2007年1月13日（土）

スタッフの多くが関東在住である中、私一人が東海地方の在住で、スタッフや出演者の多くと私はこの日、初めて顔を合わせた。私以外のスタッフ、出演者は既に2006年の11月、12月に顔合わせと会議を行っていた。初参加であった私がすんなりと場に入れたのも、先に述べた情報共有の基盤がしつかりとしていたからだ。

挨拶もそこそこに、簡単に段取りの打ち合わせをし、リハーサルを行った。

リハをするまで、正直に言っただけでスタッフ全員が不安だった。直前までタイムテーブル（！）ですらはっきりと決まらず、「面白くなるかどうか」以前に、果たして滞

りなく二時間の時間進行を行えるのか？ という類の不安を誰もが感じていたのだ。

タイムテーブルがはつきり決まらなかつたのも無理はない。今回、五人の巨石サイトオーナーを招集し、彼らにプレゼンテーションと討論を行ってもらおうという趣旨のイベントがしたかつたのだが、その中で余りにもやりたいことが多すぎて、二時間の枠内に収めるのは相当な離れ業であつたからだ。つまり同様の企画を同時同枠で行うならば、計五名のオールスターを集めた場合、このような贅沢な悩みが出る！ 人材召集が余りにもうまくいきすぎていたのだ。初期の主催スタッフが有能であつたのだらう。

結局それは杞憂に過ぎなかつた。リハが終わった後、誰言うともなく同じような発言が出た。

「これは面白い……」

早速前向きな反省会が始まり、

タイムテーブルやスタッフ動線などの微修正が行われた。誰しも本番をする当日が楽しみになつていった。

当日…2007年1月27日(土)

18時30分開場。夕刻からの開始にもかかわらず、多くの参加者が全国から集まつていた。このようなイベントが今までなぜなかつたのか？ 参加者の多くがスタッフ同様、そのように感じていたらしく、会が始まる前から期待の声があがつていた。

参加総勢は約50名。一時は開催も危ぶまれた討論会であるが、多くの支持を受けて開催できるとなつた。

スタッフや出演者は、ギリギリまで準備をしていた。座席、受付、マイク、パソコン、プロジェクター、照明、ビデオカメラ、それらすべての配置とセッティング。事

前に打ち合わせをみっちり行つていたこともあり、迅速に準備は完了した。多少のトラブルは当然「起こるもの」と全員で意識を合せていたこともあり、マシンの周りのトラブルも落ち着いて短時間で解消できた。私は台本や進行を確認していて、その辺りはフォロ―に回ることにはなかつたが、最初から最後まで、安心してスタッフに任せることができた。

19時討論会開始。最初に司会である私からイベントの趣旨と諸注意をさせていたただいた。緊張していたのか、自分の名前を名乗らなかつたそうさ。失礼なことをしてすいません。五名のサイトオーナー達をパネリストとして紹介する。

・泰山さん「泰山の古代遺跡探訪記」
・しゃこさん「しゃこちゃんのお部屋 遺跡と神社を巡る旅」

・湯畑野秀明さん「求道者 聖なるモノへの旅路」
・MURYさん「岩石祭祀学提唱地」
・皆神隆さん「超歴史研究会」

いずれ劣らぬ、人気巨石サイトのオーナー達だ。普段インターネットに触れない人たちにはピンと来ないかもしれないが、このメンバーはオールスターと言つても過言ではない凄まじい顔ぶれだ。実際私は、彼らのWEBサイトを閲覧して初めて、巨石の面白さに目覚めた。

これまでインターネットの世界を主戦場としており、比較的、自分の顔と声をさらけ出すことのなかつた人たち。来場の皆様の中にももちろん、初めて顔を見るという人たちも多かつたため、紹介するだけで嬉しそうに頷いたりする人もいた。

さつそく五名のパネリストの皆様に、それぞれの「思い入れのある巨石」と「巨石に関する持論」などを語ってもらおう。時間は凡そ、一人十五分。

二度ほど質疑応答をはさみ、プレゼンテーションのあとは、本題でもあった討論会を凡そ三十分。

舞台裏では変化する状況に応じて、一分刻みのタイムテーブルを、スタッフ全員がサーカス並みの集中力でこなしていた。出演者にはタイムテーブルは基本的に気にせず、好きなように語ってもらったつもりだが、これもまた全員が質、量ともに完璧な出来で、ほとんど支障も無く二時間をあつという間に感じる早さで消化していた。時間管理における私の仕事はほとんど出番がなかった。

スクリーンに映し出される迫力ある巨石写真の数々と、熱意のこもった弁を聞き、私も司会でありながら役目を忘れて聞き入ってし

まう場面もしばしばあった。

それぞれのパネリストの発表内容については別項を参照して欲しいのだが、幾つか特に印象に残った場面と、それについての随想を記す。

1. Megalith Search Project UICSP

しゃさんを始め多くのパネリストが、プレゼンテーション中に巨石の場所を示す際、「Megalith Search Project（以下、略称『MSP』）と呼ばれるインターネット上の「巨石位置情報の集積データベース」を活用されていた。これまで巨石や磐座を現地で調査する際、詳細な場所は案内人や、現地の地図などに記された乏しい情報を元に探すしかなかった事も多かったと思うが、このWEBサイトの登場と共に、それは一気に解決に向かうのではないか、という期待の声が入ターネット上であ

がっている。

インターネットの世界も過去、まだまだ完璧なものではなく、一人の超人的な行動力と情報整理力を持つ人間（たとえばしゃさん）が、淡々とそれぞれの巨石の位置情報を紹介していたスタイルが長年続き、それらの情報を総合的に活用する際には、閲覧者自身による情報の刷り合わせが必要となっていた。

MSPはそれらの、いわば「WEB1.0」的な位置に留まっていた「巨石位置情報」を、個人の力に頼るのではなく、同じ志を持つ仲間達の相互協力により発展させていくという、いわば「WEB2.0」的な自己成長システムだ。ネット環境の利用できる人で、MSPの存在を知らなかった人たちは、一度利用してみるといい。その便利さに驚くことと思う。検索エンジンで「Megalith Search Project」と検索すればすぐに出て

くる。

ただ、このMSPの完成度、充実は、私見だが、まだこれからといったところ。

一方、MSPを管理されている夜風さんから聞いた話なのが、このMSPの更なる発展、維持のためには、現在、情報提供者よりも、管理サイドの手が不足しているという状況らしい。それこそ星の数ほど存在する「石」の位置情報集積、整理のためにサイト再構築の可能性も示唆されていたが、MSPの設立趣旨に賛同せんと思われた方達は、是非とも夜風さんに連絡を取って、その手助けをして欲しい。WEB2.0は技術ではなく「相互利用、相互協力」という概念をインターネットで実現する際の呼称なのだから。

「ここをこうすれば良いのでは？」という一つの意見で劇的に、管理が簡便になり、また利用者が使いやすくなるという可能性もあ

る。ぜひ一度利用して、感想を述べてあげて欲しい。

2. 「巨石」は果たしてパワ―を持つのか？

質疑応答のさなか、参加者の一人から上がった質問なのだが、これは気になる人も多いと思う。正直言つて私は自分が理系出身ということもあり、かつ、特に感覚的に優れている方でもないのですが、この手の話題には懐疑的であった。だが泰山さんがこの問いに対して実に理知的でわかりやすい答えを返していたことで、初めてこの話を

まともに聞く気にもなった。今後は少し気にもしてみようか、と思う。

これはまったくの余談だが、「祭られている磐の多くは花崗岩（統計をとったわけではない）」という通説を下敷きにした文学的表現をするならば、たとえば「古代、地中に存在したマグマが、冷え固ま

って花崗岩となった。原初のマグマのエネルギ―を内包したまま石となったそれは、やがてそのエネルギ―により、人の畏れの心や信仰心、あるいは好奇心を喚起する存在、すなわちイワクラとなった」とても記述すれば良いのかもしれないが、個人的にはもっと明快な説明がないと、心底の意味では納得ができない。

結局のところこの件については、私が泰山さんの話を聞いて理解したところでは、「電流が流れるところには磁気と力が発生する」という高校物理初歩の知識で説明が十分（フレミングの左手の法則を思い出して欲しい）。

いかに本件に対して懐疑的な者であったとしても、前提知識として「ほとんどの鉱物は磁性を帯びる」「すべての鉱物は三種の電気伝導体、導体、半導体、非導体に分類できる」「電位差が生じる場所には電圧が発生し、結果電流が流れ

る」「岩石は鉱物の集合体である」といったものを、知っていればこの問題に対しては「完全なノー」とは言えず、「イエスと言えるものもあるかもしれない」くらいにまでは考えが動く。人により差異はあると思うが、私の場合はそうだった。

それら前提知識をふまえた上で、の具体例として、泰山さんはある巨石地帯（本人の意向もあると思うし、記憶のみでこの文章を綴っているので特定の地名は明記しない）を挙げて説明されていた。

いわく「花崗岩帯の岩盤の上に、性質の異なる岩石、たとえば安山岩の巨石を据えた場合、両者が帯びる磁性や電気伝導体としての性質は異なるため、結果、自然科学の摂理として、両者の間に電位差が生じる。電位差が生じると抵抗の問題もあるが、微弱ながらも電流が発生することは大いにありえ、結果磁気異常やいわゆる『波動』

などと呼ばれる類の力が発生する。という風に現代科学の言葉でも、この現象はどのような理論で説明できるのではないか」といった趣旨の内容を述べられていた。

会場にいた人たちの中でも、一番驚いていたのは私だったと思う。それだけ衝撃的な話だった。これまで「感覚」だけで話す人が多く、「感覚」だけで理解している人たちもまた多かった状況に、ひとつの風穴を開けたのではないかと思う。

（※冒頭の繰り返しになるが、文責は私にあり、認識違いや伝達違いによる誤解はすべて泰山さんとは無関係である。一傍観者として、私が理解したところの泰山さんの話を記録させていただいた）

3. 巨石の「人為的な」加工について

「岩石を語る上でどうしても必要となってくるのは地学や岩石学、

鉱物学に関する確かな知識なんです」

これはパネリスト全員の共通認識でもあったが、特に湯畑野さんが具体例を交えながら力説されていた。以下、氏の発言を受け、私が個人的に理解したところを記しておきたい。

岩石の中には様々な「人為的」にも思える奇妙な形状をしたものがある。それらをすべて「過去の文明の名残だ」と言い切ってしまうのは実に簡単だが、自然の力人はそう簡単に支配できるものではない。

たとえばスパツと切ったような断面を持つ巨石がある。これをすべて人為的と解釈するには不自然なときがある。これは花崗岩などの火成岩に見られる特徴の一つでもあるのだ。火成岩は流体であるマグマが冷え固まったものであり、形成されたそれは割れやすい方向、いわゆる「目」をもつ。風化や浸

食、地震などの衝撃により、自然に割れた場合でも、結果、滑らかな断面を露呈することが、まああるということだ。もちろん人の手により割られた巨石もあることだろう。ただ人間による、何らかの確実な作成目的が証明できない限りは、自然作用による形成プロセスもまた視野に入れて語るべきである。

またたとえば、一つの巨石、あるいは岩盤の中に入り込んだ白っぽい、確実に母岩とは異なる別の材質から成る岩脈がある。これも多くは「アプライト」と呼ばれるもので、花崗岩質マグマが冷えていったとき、最後に残った液が、既に冷えかかった母岩の割れ目に細かく入り込み、比較的早く冷えて固まることで形成される。それを一目見ただけですべて「古代のセメント」と語ることは簡単だが、上記「鋭利な断面をもつ巨石」同様、「なぜ人がそれを作る必要があるのか」という目的を、根拠を持って語れないと、少なくとも学術的な組上には上がらない。(これまでのイワクラ研究には残念なことだがほとんどない。ゆえに既存の学会に「相手にされない」のだ)

狭い範囲でフィールドワークを行っていると、こういったある種の「誤解」にとらわれやすい。繰り返しになるが、「岩石に対する人間の建築行為の名残」を証明するために共通するのは、5W1Hの説明、特にWhy(なぜ?)が必要だと私は思う。学会内に未だHow(どうやって?)ばかりにとらわれてしまっている人たちが多い現状を踏まえて、あえて記させていただいた。

総じてこの問題に対して必要なのは「地学、岩石学についての正しい知識と経験」であり、「自然科学で説明がつかずすべての事象を除いてなお残る、不思議な岩石群」

をこそ、この分野の研究対象にするべきなのだ。すべての学者が匙を投げ、まるで納得のいかない説明をつけざるを得なかった巨石は、国内にも相当数存在し、この文章を読む方なら誰しも、どこかの巨石を思い描くことができるだろう。実際、今回の討論会でも、その幾つかの例が示されていた。

※これらの議論を既に通過した所にパネリストの方達はいたように感じた。地学に関する議論に当日はついていけず、この3番の項は、後に学習した知識をまとめたものである。まったく脱帽だった。

4. その他

このほかにも、パネリストの全員が、今後のイワクラ、巨石研究活動に対する展望やビジョンを多く挙げられていた。その詳細は別項を参照していただきたい。イワクラ(磐座)学会を含めたすべて

の巨石愛好家たちに、インターネット世代から送られる、初めてのまとまった提言だ。

総評

今回の討論会に出演したパネリストたちは総じて、卓越した話術を持っていた。元々の知識と行動力と経験はほぼ抜けている人たちであるということは重々承知していたが、初めて会う大勢の人たちにもわかりやすく話ができるのは、常に「他者に見られる」ことを前提としたインターネットの世界に長期にわたり滞在し、活躍しているからではないか、と感じた。年齢に関係なく彼らは皆、話がうまい。

また、パネリストたちは皆、広い視野と高いレベルの視点から話をされていた。民俗学、考古学、地学、岩石学、鉱物学、火山学、建築学など、それぞれ得意とする様々な見地か

らの意見交換。ITからフィールドワークまで、「知りたい」という欲求を実現するための高いスキルと、それに裏打ちされた確かな論証。果てはそれらを総合的に取り扱う、ある種の哲学まで、実に幅広い。

これは本来イワクラ（磐座）学会が設立当初から掲げていた「一つの分野に留まらず、あらゆる角度からイワクラを研究していく学会とする」という趣旨に完全に合致するのではないか。私はその高いレベルでの極めて幸運な実現例を、このとき初めて見た。まったくもって有意義な会であった。

討論会を終えて

もちろん問題や反省事項がなかったわけではないが、今回の討論会は非常に有意義な素晴らしいイベントになったと思う。それは間違いない。今後、これらの企画を実際に切り盛りし、実現してきた

人たちが、また関東を中心に何らかの活動を行うことになると思うが、その経験は、これまではイベントの主催側として参加できなかったすべての人を含め、非常に貴重な財産となったのではないかと。地元で巨石に関したイベントを行いたい、といった願望のある方たちは、どんどん彼らに助言を仰いでもいいと思う。

終了後の打ち上げ（朝九時まで徹夜で石について語る……）で、早速続編の話が挙げられた。ただ、この「続編」の言葉の意味合いだが、同じような地域、同じようなメンバーで行う「続編」以外にも含みがある。それは別の地域（関東以外）で開催される、別のメンバーによる「第二次巨石サイトオーナー討論会」に対する期待だ。今回の討論会は、たまたまパネリスト、スタッフに関東在住のメンバーが多く、それゆえに実現した

とも言えるイベントだが、裏を返せば他の地域にホームを置く、登場と企画運営を期待されるサイトオーナー、スタッフの候補者たちもまだまだ国内には眠っていると思う。できれば今回とはガラリと顔ぶれを変えたメンバー達による「続編」をこそ、私は期待したい（たとえば「西日本在住の巨石サイトオーナー達による巨石討論会」など、非常に楽しみだ）。無論、今回成功を収めたパネリストやスタッフを中心とした「続編」もそれに負けじと、再び盛り上がる可能性も大いにある。こちらもまた期待したい。

これまで巨石や磐座を語るイベントは「イワクラサミット」を除いてほとんど無かった。そこで舞台に上がり、大勢の観衆の前で語ることを許されていたのは、「これまでにイワクラに関する何らかの研究の実績がある」人たちだけで、

サミットの骨子は彼らによる「研究発表」が中心となっていた。

それはそれで十分に面白いのだが、いかんせん学会としては、まだまだ未成熟なイワクラ（磐座）

学会において、コンスタントに質の高い研究発表を期待し続けるのも、今の段階ではまだ厳しい面も、正直あると思う。それでは学会のみならず、巨石研究の世界全体が息切れを起しかねない。せっかく「全国、全世界に存在する意味ある石イワクラ」を研究する学会の設立という、史上かつてなかったこの機運の盛り上がりを生かせないようでは何の意味も無く、かつもつたいない。

今回のイベントは思い返すと、それほど大上段に構えたものではなかった。単に「巨石が好きでどうしようもない人たちが、長年語ることの無かった、石に対する熱い思いを、巨石が好きでどうしよ

うもない人たちに向け、語る」という、ただそれだけのイベントであつたわけで、あまり指摘されていないがこれは非常に画期的な試みだったのだ。

ただそれだけの事で、これほどに面白いイベントは実現する。これは「石に関するイベント」において、「研究発表」や「ツアー」のみではない、無限の可能性の存在を実証できたといっても過言ではない。もっと気楽な動機でいいのだ（もつともその実現のためには、当然苦勞も生じるだろうが、少なくとも発想の段階において）。

石が好きなら、本来、誰が前に出て話してもいい。舞台の上立つ資格は、著作や権威だけではない。今回はたまたま、その土台となったのがインターネットであつた、ただそれだけのことだ。

何か実現したい大きな事があり、そのために手が足りないのならば、まずは近隣の同好の士と連絡を取

り合つて、何か簡単なことを積み重ねていけばいい。その際にも、インターネットは非常に便利で有益なツールとなるだろう。

今後、これまでに無かつた試みをする人たちが、もつと多く現れることを期待してやまない。その実現のために、手を貸すことを許されるならば、微力ながら私も協力したいと思う。

謝辞

今回のイベントの出演を快く引き受けてくださったパネリストの皆様、イベント実現のために、無償の好意で多大な苦勞を、その達成感のために引き受けてくださったスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。末席ながら主催サイドとして呼んでいただいて、感謝しております。

学会事務局には多大なるバックアップをいただきました。安心して企画運営に臨めたのも事務局の

陰の力あつてこそです。いつもありがとうございます。

大勢集まっていたいただいた参加者の皆様も、活発な意見交換と熱気をありがとうございました。楽しかったです。またお会いしましょう。

高橋 政和
2007年2月21日